

令和3年度

参加・体験・実践型 交通ボランティア養成事業運営支援業務  
事業報告書

令和4年3月

内閣府政策統括官（政策調整担当）



# 目 次

## ．令和3年度 参加・体験・実践型交通ボランティア養成事業 実施概要

1．事業の目的	1
2．事業の概要	1
3．実施地区概要	2

## ．実施地区の報告

1．岩手県 山田町	3
2．大阪府 池田市	17
3．兵庫県 高砂市	27

## 資料

1．事前打合せ資料	38
2．実施マニュアル(例)	45
3．アンケート調査票	
(岩手会場)	57
(大阪会場)	62
(兵庫会場)	65

## ・令和3年度 参加・体験・実践型交通ボランティア養成事業 実施概要

### 1. 事業の目的

本事業は、内閣府が地方公共団体の提案を受け、当該地域の実情を踏まえた上で、当該地域において必要な交通安全に資する事業を実施することにより、地域における自主的な交通安全活動を推進することを目的とする。

### 2. 事業の概要

都道府県、市町村、所轄警察署、保育園・幼稚園、小・中学校、PTA、高齢者団体及び交通関係団体等との連携・協力の下、実施地区ごとに交通ボランティア等を中心とする実行委員会を設置する。実行委員会は、参加者の理解・共感を促し、地域の交通実態に合った参加・体験・実践型のプログラムを決定し、これを実施する。

プログラムの実施後には、実施結果等を踏まえて、今後の当該地域における交通安全活動がより効果的・効率的なものとなるよう、実行委員会としての意見を取りまとめる。

#### (1) プログラム実施期間

概ね令和3年10月から11月までに実施する。

#### (2) 実施地域等

岩手県山田町、大阪府池田市、兵庫県高砂市において実施した。

実施地区は、府県からの提案内容に基づき、地域ごとの交通事故発生状況、交通安全教育事情等を考慮して選定した。

#### (3) 参加者

岩手県山田町：老若男女問わず多くの方

大阪府池田市：市内小学3年生

兵庫県高砂市：中学生

を対象として実施した。

#### (4) 実施方法

実施地域ごとに、各地域の実情に即したプログラム内容や参加者の募集方法等を検討・計画し、プログラム当日の運営等を行った。

プログラム実施後は、参加者及び実行委員を対象としたアンケート調査を実施するとともに、本事業を実施した結果を踏まえ、地域における交通安全教室等の実施方法・内容が今後より効果的かつ効率的なものとなるよう意見を取りまとめた。

事業実施に際しては、府県及び実施市町、地域において日常的に交通安全活動を行っている交通ボランティア団体を始めとした関係団体・機関（保育園・幼稚園や小・中学

校、PTA、高齢者団体、所轄警察署等)との連携を図り、協力を得て実施した。

### 3. 実施地区概要

#### (1) 実施地区・期日・会場等一覧

	開催 府県	実施 市町村	実施期日	実施会場
1	岩手県	山田町	11月21日(日)	船越公園 鯨と海の科学館内
2	大阪府	池田市	10月14日(木) 10月19日(火)	授業配信：池田市役所 児童：市立小学校(10校)
3	兵庫県	高砂市	11月1日(月)	高砂市立宝殿中学校

#### (2) 実施地区の参加者数一覧

	開催 府県	実施 市町村	参加者総数	内 訳
1	岩手県	山田町	556名	
2	大阪府	池田市	14日 420名 19日 447名	14日 5校 14クラス 19日 5校 15クラス
3	兵庫県	高砂市	136名	宝殿中学校生徒

## ・実施地区の報告

### 岩手県 山田町

#### 事業の概要

##### 1．事業名

わくわく交通安全体験 in やまだ

##### 2．主 催

内閣府、岩手県山田町、わくわく交通安全体験 in やまだ実行委員会

##### 3．事務局

岩手県山田町、一般財団法人日本交通安全教育普及協会

##### 4．実施会場

船越公園 鯨と海の科学館内

##### 5．実施日時

令和3年11月21日(日) 9:00～14:00

##### 6．参加者

山田町内を中心とした老若男女 556名

##### 7．プログラム内容

- ・開会（開会行事）
- ・スケアード・ストレイト
- ・体験コーナー
  - シミュレーター（自動車／自転車）
  - クイックアーム
  - シートベルトコンビンサー
  - サポカー試乗
- ・こども交通安全教室
- ・自動車整備点検コーナー
- ・自動車販売店コーナー
- ・警察官ブース
- ・自衛隊ブース
- ・閉会（閉会行事、アンケート回収等）

## 8. 実施体制

本事業は、地域の交通事情・交通安全教育の実情等を考慮した内容とするため、実施地域において交通安全教育や交通安全活動等に携わっている山田町の交通安全対策担当等が中心となってプログラムの企画と運営にあたった。

## 9. 実行委員会等開催経過

事前打合せ（第1回：オンライン）

期日：令和3年9月13日（月）

会場：（一財）日本交通安全教育普及協会会議室

協議事項：趣旨説明

実施主体の検討

実施日・会場の検討

参加予定者の検討

実施プログラムの検討

事前打合せ（第2回）

期日：令和3年10月19日（火）

会場：山田町役場「会議室」

協議事項：実行委員会委員候補の検討

実施日・会場の検討（下見含む）

参加予定者の検討

参加者募集方法の検討

実施プログラムの検討

配布啓発品の検討

参加者アンケート調査票の検討

第1回実行委員会

期日：令和3年10月28日（木）

会場：山田町役場「会議室」

協議事項：実施プログラムの検討

当日日程の検討

役割分担の検討

使用物品の確認

協力スタッフについて

第2回実行委員会

期日：令和3年11月16日（火）

会場：山田町役場「会議室」

協議事項：実施プログラム確認

役割分担確認

運営タイムテーブル、進行プログラム確認

第3回実行委員会（事後）

期日：令和3年12月23日（木）

会場：山田町役場「会議室」

協議事項：事業実施報告

参加者アンケート集計結果

反省と今後の課題について（意見交換）

実行委員へのアンケート調査

#### 10. 事後実行委員会総括（事務局まとめ）

実施についての感想

- ・ こども免許証が好評で、交通安全教室への多くの参加があった
- ・ スケアード・ストレイトは交通事故の怖さを再認識するために効果的であるが、対象年齢に応じた内容にするなどの工夫も必要
- ・ 駐車場からの来場者の動線（受付場所）をもう少し工夫するべきであった
- ・ 交通事故撲滅のためには、関係機関・団体との連携が何よりも重要であることを再認識することができた

成果と課題・今後の取り組み

- ・ スケジュール調整が不十分で余裕がなかった
- ・ 関係機関との協議・調整が不十分であった
- ・ イベントの周知に十分時間を割くことができなかった
- ・ 多くの参加者を集めるためには、他のイベントと併せて実施するなどの工夫も必要



## 11. 実施の様相



( 開会式 )



( 検温・氏名等記入・グッズ配布 )



( スケアード・ストレイト )



( スケアード・ストレイト )



( 自動ブレーキ試乗体験 )



( 自動車整備点検指導ブース )



( 警察官ブース )



( 自衛隊ブース )



( シートベルトコンビンサー )



( 子ども交通安全教室 )



( シミュレーター体験コーナー )



( 自動車販売店コーナー )

## 12. 参加者等アンケート集計結果の概要

調査対象：参加者（子ども、高校生以上） 実行委員

子ども（回答者数：103名）

### （1）参加者の学年

参加者の学年は、「幼稚園・保育園」が44.7%、「小学生」が51.5%、「中学生」が0.9%であった。（表1）

表1 学年（問1）

幼稚園・保育園	46名	44.7%
小学 1年生	11名	10.7%
小学 2年生	13名	12.6%
小学 3年生	7名	6.8%
小学 4年生	10名	9.7%
小学 5年生	4名	3.9%
小学 6年生	8名	7.8%
中学 1年生	0名	0%
中学 2年生	0名	0%
中学 3年生	1名	0.9%
無回答	3名	2.9%

### （2）今日の行事に参加して

今回の行事に参加して、参加者の85.6%（88名）が「とてもよかった」、次いで9.7%（10名）が「よかった」と回答した。（表2）

表2 今日の行事に参加して（問2）

とてもよかった	88名	85.6%
よかった	10名	9.7%
ふつう	1名	0.9%
よくなかった	1名	0.9%
全然よくなかった	0名	0%
無回答	3名	2.9%

### (3) 参加して感じたこと(複数回答)

行事に参加しての今の気持ちについて、特に7割以上が「交通ルールや交通マナーを守ろうという気持ちが強くなった」と回答した。(表3)

表3 行事に参加しての今の気持ち(問3)

交通ルールや交通マナーを守ろうという気持ちが強くなった	74名	71.8%
道路でまわりの車や人に十分注意して行動しようという気持ちが強くなった	60名	58.3%
交通安全についてもっと知りたいという気持ちが強くなった	44名	42.7%
ふだんから交通安全についてだれかと話そうという気持ちが強くなった	34名	33.0%
特に変わりはない	6名	5.8%
無回答	0名	0%

### (4) 行事への参加について

これからも、今日のような行事に参加したいか、について、参加者の96.2%(99名)が「参加したい」と回答した。(表4)

表4 今後の参加について(問4)

参加したい		参加したくない		無回答	
99名	96.2%	1名	0.9%	3名	2.9%

高校生以上(回答者数:134名)

### (1) 参加者の属性

属性

参加者の年齢別では30代が42.5%(57名)、次いで40代が18.7%(25名)、60代が16.4%(22名)となっている。(表5)

表5 参加者の年齢別内訳(問1-1)

10代	5名	3.7%
20代	9名	6.7%
30代	57名	42.5%
40代	25名	18.7%
50代	7名	5.2%
60代	22名	16.4%
70代	8名	6.0%
80代以上	1名	0.8%
無回答	0名	0%



### 運転免許保有の有無

参加者の運転免許保有の有無は、「あり」が47.0%(63名)であったが、無回答が48.5%(65名)であった。(表6)

表6 運転免許保有の有無(問1-2)

あり	63名	47.0%
なし	6名	4.5%
無回答	65名	48.5%

### (2) 誰と参加していたか

今日の行事に誰と参加したかは、「家族と参加」が85.0%(114名)であった。(表7)

表7 誰と参加したか(問2)

家族と参加	114名	85.0%
友人・知人と参加	8名	6.0%
その他	3名	2.2%
一人で参加	8名	6.0%
無回答	1名	0.8%

### (3) 今日の行事に参加したきっかけ(複数回答)

今日の行事に参加したきっかけは、「交通安全に興味があった」が38.0%(51名)、「おもしろそうだった」が38.8%(52名)とほぼ同数であった。(表8)

表8 参加の動機(理由)(問3:複数回答)

交通安全に興味があった	51名	38.0%
学校やPTA・敬老会からの案内によって	0名	0%
知人に誘われた	0名	0%
家族に勧められた	0名	0%
おもしろそうだった	52名	38.8%
子ども(孫)が参加している	7名	5.2%
その他	12名	9.0%

### (4) 今日の行事に参加して

#### 感想

今回の行事に参加して、参加者の72.4%(97名)が「大変良かった」、次いで25.3%(34名)が「良かった」と回答し、両方で97.7%(131名)を占めた。(表9)

表9 今日の行事に参加して(問4-1)

大変良かった	97名	72.4%
良かった	34名	25.3%
ふつう	2名	1.5%
良くなかった	1名	0.8%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

## プログラムの評価

表 10 スケアード・ストレイト（問 4-2）

大変良かった	105 名	78.3%
良かった	24 名	18.0%
ふつう	5 名	3.7%
良くなかった	0 名	0%
全然よくなかった	0 名	0%
無回答	0 名	0%

表 11 ブースによる展示・体験（問 4-2）

大変良かった	92 名	68.7%
良かった	37 名	27.6%
ふつう	5 名	3.7%
良くなかった	0 名	0%
全然良くなかった	0 名	0%
無回答	0 名	0%

表 12 特に興味を持ったブース（問 4-2）

シートベルトコンビンサー	52 名	38.8%
シミュレーター体験	47 名	35.0%
警察官ブース	85 名	63.4%
自衛隊ブース	67 名	50.0%
自動車整備点検指導ブース	25 名	18.7%
自動車販売店ブース	23 名	17.2%
こども交通安全教室	65 名	48.5%
無回答	15 名	11.2%

### (5) 参加しての今の気持ち

行事に参加しての今の気持ちについて、全ての項目で参加者のほぼ全員が「気持ちが高まった」と回答した（表 13）。

表 13 行事に参加しての今の気持ち（問 5）

	はい		いいえ		無回答	
	名	%	名	%	名	%
交通ルールや交通マナーを守らなければいけないという気持ちが高まったか	131 名	100%	0 名	0%	0 名	0%
道路状況や交通状況などに十分注意して行動しようという気持ちが高まったか	133 名	99.3%	1 名	0.7%	0 名	0%
家族で交通安全について日常的に話し合ったり考えたりすることが大切だという気持ちが高まったか	134 名	100%	0 名	0%	0 名	0%
友人や仲間と、交通安全について話し合おうという気持ちが高まったか	134 名	100%	0 名	0%	0 名	0%
地域の子どもたちや地域の皆さんを、交通事故から守ろうという気持ちが高まったか	134 名	100%	0 名	0%	0 名	0%
交通安全のためにあなた自身が地域で何か役割を果たそうという気持ちが高まったか	134 名	100%	0 名	0%	0 名	0%
これからも機会があれば交通安全（教室）に参加しようという気持ちが高まったか	134 名	100%	0 名	0%	0 名	0%

**(6) 開催日（曜日を含む）について**

開催日について、参加者全員が「良かった」と回答した（表 14）

表 14 開催日（曜日を含む）について（問 6-1）

良かった		良くなかった		無回答	
134 名	100%	0 名	0%	0 名	0%

**(7) 行事全体の時間の長さについて**

行事全体の時間の長さについて、参加者全員が「良かった」と回答した。（表 15）

表 15 行事全体の時間の長さについて（問 6-2）

良かった		長かった		短かった		無回答	
134 名	100%	0 名	0%	0 名	0%	0 名	0%

**(8) 行事の周知方法について**

行事の周知方法について、参加者の 99.3%（133 名）が「良かった」と回答した。（表 16）

表 16 参加者の数について（問 6-3）

良かった		良くなかった	
133 名	99.3%	1 名	0.7%

**(9) プログラム（ブース）の数について**

プログラム（ブース）の数について、参加者の 94.0%（126 名）が「良かった」と回答した。（表 17）

表 17 プログラム（ブース）の数について（問 6-4）

良かった		多かった		少なかった	
126 名	94.0%	0 名	0%	8 名	6.0%

**(10) 各プログラム（種目）の中での説明の仕方について**

各プログラム（種目）の中での説明の仕方について、参加者の 98.5%（132 名）が「良かった」と回答した。（表 18）

表 18 各プログラム（種目）の中での説明の仕方について（問 6-5）

良かった		良くなかった	
132 名	98.5%	2 名	1.5%

**(11) 全体の流れ（進行）について**

全体の流れ（進行）について、参加者全員が「良かった」と回答した。（表 19）

表 19 参加者の数について（問 6-6）

良かった		良くなかった		無回答	
134 名	100%	0 名	0%	0 名	0%

## 実行委員（回答者数：6名）

### （1）実行委員の属性

実行委員の所属は、町内会・自治会、交通安全協会、交通安全母の会、行政、警察、その他がそれぞれ1名であった。（表20）

表20 実行委員の所属・種別（問1）

	実行委員
町内会・自治会	1名
	16.67%
交通安全協会	1名
	16.67%
交通安全母の会	1名
	16.67%
行政	1名
	16.67%
警察	1名
	16.67%
その他	1名
	16.67%

### （2）プログラムの評価について

自身の地区のプログラムの評価について、実行委員の66.7%（4名）が「大変良かった」、33.3%（2名）が「良かった」と回答した。（表21）

表21 今日の行事は（問2-1）

大変良かった	4名	66.7%
良かった	2名	33.3%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

自由記述欄

\* 暖かい時期ならばもっと良かった

\* 交通安全について再認識できた



## プログラム評価

表 22 スケアード・ストレイト（問 2-2）

大変良かった	6名	100%
良かった	0名	0%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

表 23 ブースによる展示・体験（問 2-2）

大変良かった	2名	33.3%
良かった	4名	66.7%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

## 参加者数について

表 24（問 2-3）

多かった	0名	0%
想定どおり	2名	33.3%
少なかった	4名	66.7%

## 自由記述欄

\* 想定通り これまでのイベントとの比較から

\* 想定より少ない 日程決定が遅れ告知期間は短かった  
周知方法、期間を工夫する必要がある

## （3）本事業で達成できたと思うことについて（複数回答）

本事業を実施し、参加者に期待したことで、達成できたと思うことについて、実行委員の100%（6名）が「交通ルールや交通マナーの大切さを理解してもらう」、「今日の行事がきっかけとなって、地域の交通安全活動への参加意欲が高まる」と回答した。（表 25）

表 25 達成できたと思うこと（問 3）

交通ルールや交通マナーの大切さを理解してもらう	6名	100%
参加者同士が顔見知りになり、挨拶や声掛けを通じて交通事故防止につなげる	2名	33.3%
今日の行事がきっかけとなって、地域の交通安全活動への参加意欲が高まる	6名	100%
家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを知ってもらう	5名	83.3%
その他	0名	0%

#### (4) 交通ボランティア活動の実践の場としての、本事業の評価

本事業に、実行委員として参加いただいたことで、交通安全教育などの知識や技術向上の機会となったかについて、実行委員の 83.3%(5名)が「大変役に立った」、16.7%(1名)が「役立った」と回答した。(表 26)

表 26 知識や技術向上の機会となったか(問 4-1)

大変役立った	5名	83.3%
役立った	1名	16.7%
ふつう	0名	0%
役立たなかった	0名	0%
全然役立たなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

本事業に参加いただいたことによって、有益だったことについて(複数回答)実行委員の 50%(3名)が「交通安全に関する知識の習得について」、「行政や警察、他団体との連携について」と回答した。(表 27)

表 27 有益だったと思うこと(問 4-2)

交通安全に関する知識の習得について	3名	50%
交通安全教育を行う際の指導方法について	2名	33.3%
交通安全教室実施のための企画立案について	2名	33.3%
交通安全教室の運営について	2名	33.3%
交通安全教室で使用する道具等の制作・調達について	1名	16.7%
行政や警察、他団体との連携について	3名	50%
その他	0名	0%
無回答	1名	16.7%

自由記述欄 \*町に交差点セット(信号機・横断歩道)があることを知った

本事業に参加いただいたことにより、今後の交通安全活動に活用される予定について、66.7%(4名)が「活用していきたい」と回答した。(表 28)

表 28 今後の活用予定について(問 4-3)

活用していきたい	4名	66.7%
一部活用していきたい	1名	16.7%
どちらともいえない	0名	0%
活用することは難しい	0名	0%
無回答	1名	16.7%

本事業への参加を契機として、今後同様（又は類似）の体制で交通安全教室を実施したいと思うか、またそれは現実的に可能かについて実行委員の83.3%（5名）が「実施したいし、可能だと思う」、と回答した。（表29）

表29 継続実施に向けての意欲と可否（問4-5）

実施したいし、可能だと思う	5名	83.3%
実施したいが、困難だと思う	0名	0%
実施したいと思わない	0名	0%
どちらともいえない	0名	0%
無回答	1名	16.7%

（5）本事業以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるためにはどのような機会が必要だと思うか。（自由記述）

- ・学校などで交通安全教室を行い参加する
- ・講習会等への参加
- ・小規模であっても同様の事業を継続すること

（6）今回、本事業に取り組んだことで、あなた自身に意識の変化や再認識したことがあったか。（自由記述）

- ・保護者は子どもたちが事故に遭わないように願っていると改めて認識した
- ・車を真剣に運転しようと思った
- ・制限速度の順守
- ・スケアードを見て衝突の威力を再認識した

（7）本事業に対する意見や提言について。（自由記述）

- ・予算がかかることなので今回の実施は有意義であった
- ・交通安全母の会（婦人会）の会員研修の一つとして行事を行いたい
- ・イベントを成功させようとする意識の共有が図られた

## 大阪府 池田市

### 事業の概要

#### 1. 事業名

小学校オンライン交通安全教室

#### 2. 主催

内閣府、大阪府池田市、「小学校オンライン交通安全教室」実行委員会

#### 3. 事務局

一般財団法人日本交通安全教育普及協会

#### 4. 実施会場

授業配信 大阪府池田市役所  
児童参加 池田市立小学校 計10校

#### 5. 実施日時

第1回 令和3年10月14日(木)9:40～10:25 5校  
第2回 令和3年10月19日(火)9:40～10:25 5校

#### 6. 参加者

小学校3年生 計867名

#### 7. プログラム内容

開会(授業実施方法の説明)  
オンライン交通安全教室  
第1回：大阪府警察本部  
第2回：池田警察署・池田交通安全協会  
閉会(オンライン教室終了)  
アンケート・習熟テスト等(各小学校にて実施)

#### 8. 実施体制

本事業は、地域が主体となって新たな教育手法である「オンラインでの交通安全教育」を企画・運営していくことを目的として、以下の体制で実施した。

- ・全体統括：池田市役所、池田市教育委員会
- ・授業の企画、当日の実施：大阪府警察本部、池田警察署、池田交通安全協会
- ・オンラインでの実施についての助言等：事務局

## 9. 実行委員会等開催経過

事前打合せ（第1回）

期日：令和3年9月1日（水）

会場：池田市役所、（一財）日本交通安全教育普及協会 オンライン参加

協議事項：趣旨説明

オンライン教室の進め方検討

実施日の検討

実行委員会の設置検討

リハーサルの検討

当日の配布物・啓発グッズの検討

事前打合せ（第2回）

期日：令和3年10月1日（金）

会場：池田市役所、（一財）日本交通安全教育普及協会 オンライン参加

協議事項：カメラ・マイクの配信テスト

当日の立ち位置・カメラ画角の確認

第1回打合せ(事前実行委員会)の日程確認

第1回実行委員会

期日：令和3年10月5日（火）

会場：池田市役所、（一財）日本交通安全教育普及協会 オンライン参加

協議事項：各会場校一覧の確認

接続テストの検討

当日の配布物・啓発グッズの検討

実施マニュアル(案)の確認

実施後の習熟テストの検討

授業実施内容の時間配分検討

第2回実行委員会（事後）

期日：令和3年12月24日（金）

会場：池田市役所、（一財）日本交通安全教育普及協会 オンライン参加

協議事項：事業実施報告

参加者アンケート集計結果

反省と今後の課題について（意見交換）

## 10. 事後実行委員会総括（事務局まとめ）

### 実施についての感想

- ・参加者(児童)のアンケート結果からは、「今回の教室についてどう感じたか」という設問については「とてもよかった」「よかった」が概ね多数ではあったが、「ふつう」「よくなかった」と回答した児童も（少数ではあったが）おり、また「これからも、このような行事に参加したいか」という設問に対しても少数ではあるが「参加したくない」という回答が見られ、オンラインでの教育の難しさを感じられた

### 成果と課題・今後の取り組み

#### （成果）

- ・オンラインでの教室は不安であったが、子どもたちの評価は良かった
- ・オンラインでの指導方法、企画立案の方法が分かった
- ・自転車の安全な乗り方や、交通ルールについては伝えることができたのではないか

#### （課題・今後の取り組み）

- ・準備期間に余裕がなかった
- ・比較するならやはり対面の方が良いのではないか（オンラインは一方通行になってしまわないか）
- ・小学校の現場からは、実際の対面型を要望されるのではないか  
（上記についてはオンラインでも双方向での実施手法があることを共有）
- ・今後、オンラインで実施する場合は、双方向でのやり取りを盛り込む等を念頭に、準備期間も十分に取る必要がある

## 11. 実施の模様



(準備では映る範囲をテープで示した)



(クイズで興味を引き付ける)



(市役所での授業実施)



(カメラ・画面に向かって講話を行う)



(教室で授業を受ける児童の様子)



(配信画面のキャプチャ)

## 12. 参加者等アンケート集計結果の概要

調査対象：参加者（小学校3年生児童）、実行委員

参加者（回答者数：837名）

### （1）普段交通安全について誰かと話すことがあるか（複数回答）

「家族」が最も多かった一方、次に多かった回答が「誰とも話さない」であった（表1）

表1 普段、交通安全について話すことがあるか（問1）

先生	77名	9.2%
家族	549名	65.6%
友だち	176名	21.0%
誰とも話さない	255名	30.5%

### （2）今日の教室について

65.8%（551名）が「とてもよかった」、次いで22.6%（189名）が「よかった」と回答した一方、「ふつう」という回答も一定数（10.3%、86名）見られた（表2）

表2 今日の教室について（問2）

とてもよかった	551名	65.8%
よかった	189名	22.6%
ふつう	86名	10.3%
よくなかった	3名	0.4%
全然よくなかった	3名	0.4%
無回答	5名	0.6%

### （3）今回の教室に参加してどのようなことを感じたか（複数回答）

「ルール・マナーを守ろう」が最も多く、次いで「道路で交通他者に注意して行動しよう」、「交通安全についてもっと知りたい」という回答が多かった一方、問1の結果でも問題であった「交通安全について誰かと話す」ことについてはあまり回答が多くなかった（表3）

表3 今回の教室に参加してどのようなことを感じたか（問3）

交通ルールや、マナーを守ろうという気持ちが強くなった	656名	78.4%
道路でまわりの車や人に十分注意して行動しようという気持ちが強くなった	552名	65.9%
交通安全についてもっと知りたいという気持ちが強くなった	348名	41.6%
ふだんから交通安全についてだれかと話そうという気持ちが強くなった	175名	20.9%
特に変わりはない	58名	6.9%



#### (4) これからも、このような行事に参加したいか

90.9% (761名) が「とてもよかった」と回答した一方、「参加したくない」という回答も一定数 (7.9%、66名) 見られた (表4)

表4 このような行事に参加したいか (問4)

参加したい	761名	90.9%
参加したくない	66名	7.9%
無回答	10名	1.2%

#### 実行委員 (回答者数: 9名)

##### (1) 実行委員の属性

実行委員のうち、アンケートに回答したのは、行政が6名、警察が2名、交通安全協会が1名であった (表5)

表5 ご所属 (問1)

行政	6名
警察	2名
交通安全協会	1名

##### (2) 今回の事業について

55.6% (5名) が「良かった」、次いで 33.3% (3名) が「大変良かった」と回答した一方、「良くなかった」という回答が 11.1% (1名) あった (表6)

表6 今回の事業について (問2)

大変良かった	3名	33.3%
良かった	5名	55.6%
ふつう	0名	0.0%
良くなかった	1名	11.1%
全然良くなかった	0名	0.0%

#### 自由記述欄

##### \* 良かった

オンライン上での教室は不安だったが、児童からの評価が良かったため。ただ対面には勝てないと思った (伝わり方やオンラインは一方通行になる等)

##### \* 良くなかった 準備期間が短かった

(3) 参加者に期待したことで、達成できたと思うこと(複数回答)

「自転車の安全な乗り方全般の大切さを理解し、正しく乗る」が最も多く、次いで「自転車に関する交通ルールや、安全確認の仕方を理解する」、「交通ルール・マナー全般の大切さを理解し、自らの命を守る」という回答が多かった一方、「点検の必要性」、「ヘルメットの大切さ」、「家庭や地域の中で交通安全について話す」ことについては、あまり回答が多くなかった(表7)

表7 参加者に期待したことで、達成できたと思うこと(問3)

交通ルール・マナー全般の大切さを理解し、自らの命を守ろうという気持ちが高まる	4名
自転車の安全な乗り方全般の大切さを理解し、正しく乗ろうという気持ちが高まる	7名
自転車に関する交通ルールや、安全確認の仕方を理解する	6名
自転車に乗る前に点検をする必要性を理解する	1名
自転車乗用時のヘルメット着用の大切さを理解する	1名
家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを知ってもらう	1名
オンライン実施により、コロナ禍においても交通安全について考えることができる	2名
その他	0名

#### (4) 交通安全活動の実践の場としての本事業の評価

(4-1) 実行委員としての参加で、交通安全教育の知識や技術向上の機会となったか  
44.4% (4名) が「役立った」、次いで 33.3% (3名) が「大変役立った」と回答した一方、「ふつう」という回答が 22.2% (2名) あった (表8)

表8 知識や技術向上の機会となったか (問4-1)

大変役立った	3名	33.3%
役立った	4名	44.4%
ふつう	2名	22.2%
役立たなかった	0名	0.0%
全然役立たなかった	0名	0.0%

自由記述欄 \* 役立った 普段自転車に乗らないため学び直しの機会になった  
\* ふつう 実行委員会の中で、通常のオンラインとは違った「池田市」  
としての特色を出そうとビデオの作成を考えていたが、知らない  
間に話が立ち消えてしまっており、内閣府の支援があるにもかかわらず、  
子ども達に真に必要な教育であったのか疑問が残る。

#### (4-2) 本事業への参加より、有益だったと思うこと (複数回答)

「指導方法について」が最も多く、次いで「企画・立案について」、「行政や警察、  
他団体との連携について」という回答が多かった一方、「運営について」、「道具等の  
制作・調達について」は、あまり回答が多くなかった (表9)

表9 参加者に期待したことで、達成できたと思うこと (問4-2)

交通安全に関する知識の習得について	2名
交通安全教育を行う際の指導方法について	5名
交通安全教室実施のための企画立案について	4名
交通安全教室の運営について	1名
交通安全教室で使用する道具等の制作・調達について	1名
行政や警察、他団体との連携について	3名
その他	1名

自由記述欄 \* その他 オンライン型の安全教育についての機材の使用法

(4-3) 本事業に参加したことを、今後の交通安全活動に活用したいか

62.5% (5名) が「活用していきたい」、次いで 25.0% (2名) が「一部活用していきたい」と回答した一方、「どちらともいえない」という回答が 12.5% (1名) あった (表 10)

表 10 今後の交通安全活動に活用したいか (問 4-3)

活用していきたい	5名	62.5%
一部活用していきたい	2名	25.0%
どちらともいえない	1名	12.5%
活用することは難しい	0名	0.0%

(4-4) 本事業への参加を契機として、今後同様の交通安全教室を実施したいか、また現実的に可能だと思うか

62.5% (5名) が「実施したいし、可能だと思う」と回答した一方、「どちらともいえない」という回答が 37.5% (3名) あった (表 11)

表 11 今後同様の教室を実施したいか (問 4-4)

実施したいし、可能だ と思う	5名	62.5%
実施したいが、困難だ と思う	0名	0.0%
実施したいと思わない	0名	0.0%
どちらともいえない	3名	37.5%

(4-5) (4-4) の回答理由

自由記述欄

\* どちらともいえない

オンラインは部分的に可能であるが、実際の対面式を希望する小学校が多いので、今後調整が必要だと思う。

(5) 本事業以外で、知識や技術の向上にはどのような機会が必要か (自由記述)

- ・他自治体の取組み事例の紹介
- ・IT リテラシーの向上(特に、トラブル対応)
- ・交通ルールの指導方法を学ぶ
- ・実地での安全教室
- ・指導者のスキルアップをはかる研修等
- ・行政機関の者(今回は市役所の方々が、単独(警察を抜きで)で安全教育出来る位の技術習得をする事が出来れば、もっと良い事業に出来ると思う。
- ・市や警察などの一方的なものではなく、今回のアンケートの結果を反映させるなどして真に必要な教育に活かしたい。

**(6) 本事業に取り組んだことで、意識の変化や再認識したこと(自由記述)**

- ・安全教育の知識の習得はもちろん重要であるが、安全に対する意識の向上が最重要
- ・関連部署間の連絡調整
- ・自転車のマナーをより意識するきっかけになった
- ・リモートで指導するむずかしさを学びました
- ・コロナ禍においての、対面による安全教育が難しい中で、オンラインで実施する事が可能となった。「出来ない」を言うのではなく、「出来る方法を探す」といった考え方が出来る様になったと思う。
- ・せっかく内閣府の支援を受けられたのに、ありきたりなオンラインとなってしまう、意見を反映、よりよいものにしていく意識改革が必要

**(7) 本事業に対するご意見・ご要望・ご感想等(自由記述)**

- ・リモート支援も重要。VR 体験施設・機器の貸し出し。
- ・事業者の早期決定
- ・児童がただ聞く側にならず、発言や一緒に何かをするなど参加型のオンラインならば、オンラインでも問題ないと思います
- ・本事業の実施に関して情報を共有する機会が少なくて混乱する面もあった
- ・今回の場合、市役所さんから事業内容の連絡を頂くのが、タイミング的に遅かったので、応募前の段階で共同で企画出来ていたら、もっと良いものが出来たと思う。
- ・内閣府のおかげで遅れていたオンライン化を進めることができた反面、受け手からの要望をこれから反映させるため、改良をしていく必要があると思った。

## 兵庫県 高砂市

### 事業の概要

#### 1. 事業名

スケアード・ストレイト交通安全教室

#### 2. 主催

内閣府、兵庫県高砂市、高砂市スケアード・ストレイト交通安全教室実行委員会

#### 3. 事務局

一般財団法人日本交通安全教育普及協会

#### 4. 実施会場

高砂市立宝殿中学校（高砂市米田町米田 1174-1 TEL 079-432-3786）

#### 5. 実施日時

令和3年11月1日（月） 午後2時35分～午後3時25分

#### 6. 参加者

高砂市立宝殿中学校 1年生 136名

#### 7. プログラム内容

開会（学校長挨拶）

スケアード・ストレイト交通安全教室

閉会（終了後アンケート実施）

#### 8. 実施体制

本事業は、高砂市役所と宝殿中学校が実施に向けて調整を行い、また関係団体との連携を図ることで、地域が一丸となって取り組んだ。

## 9. 実行委員会等開催経過

事前打合せ

期日：令和3年9月10日（金）

会場：オンライン打合せ

協議事項：事業趣旨説明

実行委員会の設置検討

スケアード・ストレイト実演内容の説明

第1回実行委員会

期日：令和3年10月20日（水）

会場：新型コロナウイルス感染防止のため書面開催

協議事項：実施要項確認

スケアード・ストレイト実施内容の確認

雨天時予備プログラムの確認

体験時安全マージンの確認

第2回実行委員会（事後）

期日：令和4年1月5日（水）

会場：新型コロナウイルス感染防止のため書面開催

協議事項：スケアード・ストレイト交通安全教室実施報告

生徒アンケート集計結果報告

実行委員からの意見募集

実行委員アンケートの依頼

## 10. 事後実行委員会総括（事務局まとめ）

### 実施についての感想

- ・生徒アンケート結果から、「今回の教室についてどう感じたか」という設問については「とてもよかった」「よかった」が概ね多数であり、その理由については、「実際に起こったことを見ることで、危険を感じる事ができた」「実際に怖さを知らないと、危機感が感じられなかった」など、体験を通じて交通事故の怖さ、命の大切さに気付いてもらえたと考える。少数ではあるが、「ふつう」「よくなかった」「全然良くなかった」と回答した生徒の理由を見ると、「事故が怖すぎた」などとなっており、交通事故の恐怖を強く感じ過ぎてしまったのではと推測され、伝わり方の難しさが感じられた。

### 成果と課題・今後の取り組み

#### （成果）

- ・アンケート結果から、ほぼ全員が今回の交通安全教室の内容・ねらいを理解していただいた。今後の交通安全への意識付けにもなり、十分な効果があった
- ・スケアード・ストレイトは、生徒に対するインパクトが強く、交通安全意識の向上のために有効な手段であると思われるので、今後他校においても実施が望まれる
- ・スケアード・ストレイト実施は、ルールを守らない運転が事故につながることを学ぶことで分かりやすかった

#### （課題・今後の取り組み）

- ・新型コロナ感染防止のため一学年のみの実施となったことは残念



## 11. 実施の様相



(校長先生の挨拶)



(時速 40km での自転車への衝突)



(見通しの悪い交差点での衝突)



(生徒による模範走行)



(ルール違反が重なったときの衝突)



(トラックの左折巻き込み事故)

## 12. 参加者等アンケート集計結果の概要

調査対象：参加者（中学校1年生） 実行委員

参加者（回答者数：129名）

### （1）普段交通安全について誰かと話すことがあるか（複数回答）

「家族」が最も多かった一方、次に多かった回答が「誰とも話さない」であった（表1）

表1 普段、交通安全について話すことがあるか（問1）

先生	6名	4.7%
家族	68名	52.7%
友だち	23名	17.8%
誰とも話さない	45名	34.9%

### （2）今日の教室について

72.9%（94名）が「とても良かった」、次いで19.4%（25名）が「良かった」と回答した（表2）

表2 今日の教室について（問2）

とても良かった	94名	72.9%
良かった	25名	19.4%
普通	4名	3.1%
良くなかった	3名	2.3%
全然良くなかった	1名	0.8%
無回答	2名	1.6%

その理由抜粋

「とても良かった」

- ・交通事故の怖さ、ちょっとしたルールを破ったことで大きな事故になると分かった
- ・分かりやすくダメな例と良い例を出していたから

「良かった」

- ・再現できていたけど、危ないと思った
- ・事故の怖さがわかったし、安全の大切さがわかったから

「普通」

- ・ルールを守るのは分かったけれど、刺激的過ぎて怖かったから
- ・テレビのアシスタントとして活動している人でも完ぺきに再現されすぎて、人が実際に飛ばされたときはめっちゃ怖かったから

「良くなかった」

- ・スタントマンとはいえ、実際に実演するのは危険だと思った
- ・想像したら悲しすぎたし怖かった

「全然良くなかった」

- ・だまされたから

### (3) 今回の教室に参加してどのようなことを感じたか(複数回答)

「ルール・マナーを守ろう」が最も多く、次いで「道路で交通他者に注意して行動しよう」という回答が多かった(表3)

表3 今回の教室に参加してどのようなことを感じたか(問3)

交通ルールや、マナーを守ろうという気持ちが強くなった	115名	89.1%
道路でまわりの車や人に十分注意して行動しようという気持ちが強くなった	102名	79.1%
交通安全についてもっと知りたいという気持ちが強くなった	50名	38.6%
ふだんから交通安全についてだれかと話そうという気持ちが強くなった	39名	30.2%
特に変わりはない	4名	3.1%

### (4) これからも、このような行事に参加したいか

96.1%(124名)が「参加したい」と回答した一方、「参加したくない」という回答も一定数(3.9%、5名)見られた(表4)

表4 このような行事に参加したいか(問4)

参加したい	124名	96.1%
参加したくない	5名	3.9%
無回答	0名	0.0%

## 実行委員（回答者数：14名）

### （1）実行委員の属性

実行委員全員からアンケートに回答いただき、その内訳は行政が6名、警察が2名、中学校が2名、教育委員会が2名、交通安全協会が1名、ボランティアが1名であった（表5）

表5 ご所属（問1）

行政	6名
警察	2名
中学校	2名
教育委員会	2名
交通安全協会	1名
ボランティア	1名

### （2）今回の事業について

85.7%（12名）が「大変良かった」、次いで14.3%（2名）が「良かった」と回答した（表6）

表6 今回の事業について（問2）

大変良かった	12名	85.7%
良かった	2名	14.3%
ふつう	0名	0.0%
良くなかった	0名	0.0%
全然良くなかった	0名	0.0%

自由記述欄 \* 大変良かった 事故の怖さを改めて再認識できた

### （3）参加者に期待したことで、達成できたと思うこと（複数回答）

「交通ルール・マナー全般の大切さを理解し、自らの命を守る」が最も多く、次いで、「自転車の安全な乗り方全般の大切さを理解し、正しく乗る」という回答が多かった一方、「点検の必要性」、「家庭や地域の中で交通安全について話す」ことについては、あまり回答が多くなかった（表7）

表7 参加者に期待したことで、達成できたと思うこと（問3）

交通ルール・マナー全般の大切さを理解し、自らの命を守ろうという気持ちが高まる	13名
自転車の安全な乗り方全般の大切さを理解し、正しく乗ろうという気持ちが高まる	11名
自転車に関する交通ルールや、安全確認の仕方を理解する	10名
自転車に乗る前に点検をする必要性を理解する	3名
自転車乗用時のヘルメット着用の大切さを理解する	10名

家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを 知ってもらおう	3名
その他	0名

(4) 交通安全活動の実践の場としての本事業の評価

(4-1) 実行委員としての参加で、交通安全教育の知識や技術向上の機会となったか  
71.4% (10名) が「大変役立った」、次いで 21.4% (3名) が「役立った」と回答した (表8)

表8 知識や技術向上の機会となったか (問4-1)

大変役立った	10名	71.4%
役立った	3名	21.4%
ふつう	1名	7.1%
役立たなかった	0名	0.0%
全然役立たなかった	0名	0.0%

(4-2) 本事業への参加より、有益だったと思うこと (複数回答)

「知識の習得」が最も多く、次いで「指導方法について」が多かった一方、「道具等の制作・調達について」は回答がなかった (表9)

表9 参加者に期待したことで、達成できたと思うこと (問4-2)

交通安全に関する知識の習得について	9名
交通安全教育を行う際の指導方法について	8名
交通安全教室実施のための企画立案について	5名
交通安全教室の運営について	4名
交通安全教室で使用する道具等の制作・調達について	0名
行政や警察、他団体との連携について	5名
その他	0名

(4-3) 本事業に参加したことを、今後の交通安全活動に活用したいか

78.6% (11名) が「活用していきたい」、次いで 21.4% (3名) が「一部活用していきたい」と回答した (表 10)

表 10 今後の交通安全活動に活用したいか (問 4-3)

活用していきたい	11名	78.6%
一部活用していきたい	3名	21.4%
どちらともいえない	0名	0.0%
活用することは難しい	0名	0.0%

(4-4) 本事業への参加を契機として、今後同様の交通安全教室を実施したいか、また現実的に可能だと思うか

78.6% (11名) が「実施したいし、可能だと思う」、次いで 14.3% (2名) が「実施したいが、困難だと思う」と回答した (表 11)

表 11 今後同様の教室を実施したいか (問 4-4)

実施したいし、可能だと思う	11名	78.6%
実施したいが、困難だと思う	2名	14.3%
実施したいと思わない	0名	0.0%
どちらともいえない	1名	7.1%

(4-5) (4-4) の回答理由

自由記述欄 \* 実施したいが、困難だと思う  
交通安全協会だけではできません  
予算面が気になります

(5) 本事業以外で、知識や技術の向上にはどのような機会が必要か (自由記述)

- ・交通事故の原因について、専門家からの分析を聞く機会 (ルールを守ることの理屈を学ぶことも大切であると思う)
- ・講習として見る、聴くだけでなく、体験する機会があれば良いと思います
- ・体験型の交通安全教育を実施すること
- ・学校での交通事故防止の授業
- ・地域の安全協会や各種団体 (自動車教習所等) との連携が必要。また家庭 (保護者) の協力が必要
- ・危険予知トレーニング等でどのような危険があるのか自分で考えたり、グループディスカッション等を通じてお互いに話し合ったりすること

(6) 本事業に取り組んだことで、意識の変化や再認識したこと (自由記述)

- ・今回の交通安全教室 (スケアード・ストレイト) は、他の事業よりも受講した者が、他の人に伝えたいと思う事業であった。広がりのある効果を再認識した
- ・中学生、高校生に教育していくためには、机上だけではなく、現場を踏まえない

と響かないと思いました

- ・写真や図での解説より、実際に実演してもらうことで実物として認識できた（内輪差による危険性など）
- ・交通安全教育には、可能な限り、リアリティをもって行ったほうが理解を得やすい
- ・日々の生活の中で交通安全を話題として事故防止に努めること
- ・改めて指導方法について勉強になった
- ・事故を疑似体験することで交通事故の恐怖や自転車の安全で正しい利用の大切さについて再認識した

#### (7) 本事業に対するご意見・ご要望・ご感想等（自由記述）

- ・大勢の関係者による事業を実施することにより、さらにお互いの連携がとることができた
- ・何よりも生徒のアンケートに今回の教室が良かったと9割以上の回答があり、交通安全の意識が高まったと思われる
- ・スケアード・ストレイト安全教育を実施できたことで、従来の講話を中心とした教育ではなく、体験型の教育ができた。効果的な安全教育ができたと思います
- ・現実に起こりうる事故防止につながる事業だったと思う。また、高砂でも実施をお願いしたい
- ・交通安全について考えさせられる非常に貴重なものだと思いますので、今後も多くの方が参加できたらよいと思います
- ・実施校の生徒にとっては貴重な学びの場となった